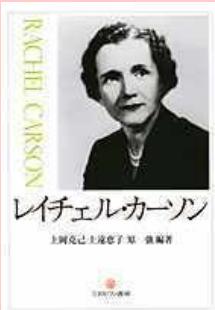


東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

「本を開き、言葉と向き合うことで、すくなくとも日常の慌ただしい時間からは逃れることができます。」

～島田潤一郎著『あしたから出版社』(ちくま文庫) p.138～

1. レイチェル・カーソン～『沈黙の春』が誕生するまで



レイチェル・カーソン
(上岡克己/上遠恵子/原強 編著
/ミネルヴァ書房)

SDGsに取り組む今、アメリカの海洋生物学者レイチェル・カーソン(1907-1964)の著書『沈黙の春』が再び注目を集めています。本書は環境問題についていち早く警鐘を鳴らした本で、農薬や化学物質による環境汚染を取り上げた内容は、発表と同時に大きな反響を呼びました。今なお世界中で読み継がれている環境問題の原典『沈黙の春』は、どのようにして誕生したのでしょうか。

レイチェル・カーソンは幼い頃から母と一緒に森や草原へ出かけ、自然の豊かさや生命の素晴らしさを学びました。植物や虫、動物を愛した彼女は、文章を書くことも大好きで、自身が創作した物語が雑誌に掲載されたこともあったそうです。将来は作家になることが夢であったレイチェルですが、18歳の時に大学で受講した生物学の授業に魅了され、自然界についてもっと学びたいと強く願うようになりました。周囲の反対を押し切って作家から生物学者へと進路を変更したレイチェル。大学院へ進むも父が逝去すると、彼女は家計を支えるために仕事をしなければならなくなりました。海の生物を紹介するラジオ番組でシナリオライターとして家族の生活を支えていたレイチェルは、台本の評判の良さから本を執筆するようになります。海の三部作と呼ばれる『潮風の下で』『われらをめぐる海』『海辺』はいずれもベストセラーで、彼女は「海の伝記作家」として不動の地位を築きました。

ある日、レイチェルのもとに1通の手紙が届きます。自然を愛する旧友からの悲痛な訴えでした—「害虫駆除のために大量のDDT^{※1}が空中散布されると、鳥たちが次々と死んでしまう」。これに衝撃を受けたレイチェルは、「この事実を世の中に伝えなければならない」と4年の歳月をかけて『沈黙の春』を書き上げました。タイトルには「農薬で鳥が死に、鳴き声のしない春になる」という意味が込められています。単行本発売前に雑誌「ニューヨーカー」で分割掲載された時から、『沈黙の春』は全米に大論争を巻き起こしました。賛否のみならず、多くの批判も浴びせられたレイチェルでしたが、当時のジョン・F・ケネディ大統領の命によって科学諮問委員会が調査を進めたところ、レイチェルの警告は証明され、危険な農薬が使用禁止の方向に進んだことは有名なお話です。

※1 有機塩素系の殺虫剤の一種。第二次世界大戦中に虫からの病気感染を防ぐことを目的として、蚊やラミの退治に使用。戦後はアメリカや日本で農薬として使用。



沈黙の春
(レイチェル・カーソン著 / 青樹集一訳 / 新潮社)

◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

万事に触れ、万人に接するによって、
初めて種々の交渉も起り
自己の発達もできる。

〔渋沢栄一訓言集〕・処事と接物



自分とは異なる考え方や価値観をもつ人たちと過ごすことは、とても大切なことです。気の合う仲間と一緒に過ごすことは、気持ちも楽で心地よいですが、様々な人や物事に接することで、自分の中にはなかった考え方触れることができ、自己の成長にもつながります。

※格言は『渋沢栄一 100の金言』渋澤健 著/日本経済新聞出版社 p.106より転載

2. 添加物を知ると食品表示が気になり始めます！

最近体がすっきりしない、疲れやすいなど体の不調を感じている方がいらっしゃる、それはもしかしたら食品添加物の影響で体のシステムが乱れているかもしれません。現在は多くの加工食品が販売されており、そのほとんどに様々な添加物が使用されていますが、安全性の高いものばかりではないようです。

「一般飲食物添加物」は、もともと食品として利用されているものを添加物として使用しているので安全性に問題はないと言われています。一方、化学的に合成された「合成添加物」や食経験のない植物や海藻から抽出した「天然添加物」は注意が必要のようです。食品に表示してある「原材料名」は原則として「食品→食品添加物の順に、それぞれ重量割合の多い順に」表示されていますが、こちらに「酸化防止剤(ビタミンC)」のように「用途名(物質名)」で書かれている添加物は、過剰摂取に注意が必要のようです。

毎日を忙しく過ごす中で、添加物をまったく口にせず飲食することはかなり困難かもしれません、食品を選ぶ時に少し意識するだけで、購入するものが変わってきますでしょうか。『新版「食べてはいけない」「食べていい」添加物』では、できるだけ安全性の高い食品が紹介されています。ぜひ皆様の健康にお役立てください。



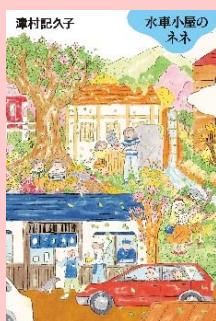
新版「食べてはいけない」「食べていい」添加物
(渡辺謙二著 / 大和書房)

3. 人々のささやかな優しさが紡ぐハートフルな物語

毎日新聞で連載されていた小説『水車小屋のネネ』(津村記久子著)は、書籍化後に2024年本屋大賞第2位に選ばれ、大きな反響を呼びました。『水車小屋のネネ』は人々のささやかな親切が紡ぐハートフルな物語で、温かく優しい雰囲気に包まれた表紙は物語の世界そのものです。作中に登場する大型インコのヨウムや水車は、毎日新聞の長期連載の途中で著者の津村さん自身が飽きないようにと、自分が興味のあるものを取り入れたのだそうですよ。

『水車小屋のネネ』の主人公は、18歳の理佐と8歳の律の二人姉妹です。離婚した母が連れてきた新しいお父さんは、理佐の進学を阻んだり、律を家から閉め出したりするような人で、親の身勝手さを許せない理佐は、律を連れて家を出る決意します。「鳥の世話じゃっかん」という、ちょっと不思議な仕事内容が書かれたそば屋に働き口を見つけ、新しい出発をした理佐と律。姉妹の暮らし向きは、収入も少なく厳しいものでしたが、そば屋のご夫婦や絵描きの杉子さんなど、身近な大人たちのちょっとした親切が二人を支え、たくましく、心温かい大人へと姉妹は成長していきます。そば屋の近くにある水車小屋にはそば粉を挽く石臼があり、その臼が空挽きにならないように番をしているのが「ネネ」という名前のヨウム。ラジオの曲に合わせて陽気に歌ったり、人の言うことを真似したりと、その個性豊かなキャラクターに皆さんもきっと心を掴まれてしまうかもしれません(意外と場の空気も読めるネネは、自分のことを人間だと思っているのでしょうかね)。10年ごとに章が進み、理佐と律、ネネを中心とする約40年にわたる物語が描かれる中で、ネネのお世話係は理佐と律から、心に傷を負った青年や友人との関係に悩む中学生へと引き継がれています。ネネのいる水車小屋は、自宅でも学校でも職場でもない、居心地の良い癒しの場所なんですね。彼らもまた、周囲の人々の親切に支えられながら、立派な大人へと成長していきます。

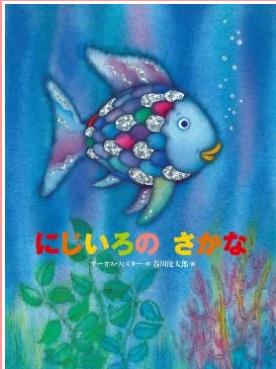
「読み終えてしまうのがもったいない」—そんな気持ちにさせてくれる小説でした。癒しの1冊です。



水車小屋のネネ
(津村記久子著 / 每日新聞出版)

絵本『にじいろのさかな』

ヒューマンケア学部看護学科 高齢者看護学領域 清水美和子



にじいろのさかな
(マーカス・フィスター作/谷川俊太郎訳/講談社)

と、彼女からは「きらきら鱗を他の魚たちに分け与えるとよい」とアドバイスを受けたのです。彼は、渋りながらも自分の美しい鱗を1枚ずつ他の魚たちに分け与えると、美しさを失うどころか、友情の価値や心からの喜びを得ることができたという、心地よいストーリーです。

『にじいろのさかな』は、外見の美しさよりも内面の美しさが大切であること、そして分かち合いの精神が友情を深めるというメッセージを伝えています。にじいろのさかなが他の魚たちと交流し、きらきら輝く貴重な鱗を分け与え友情を築く過程は、コミュニケーションの大切さを強調しています。他の魚たちは、にじいろのさかなのパフォーマンスを引き出す役割を演じ、まさにチームワークの重要性を示しているかのようです。さらに鱗を分け与える行為は、物質的なものだけでなく、自身の強みを他の魚と共有し感情を分かち合い、他者を思いやる心が自己の喜びや成長にもつながることを彼は発見したのです。面白いことにこのページに差し掛かると、幼い子供たちは特に興味関心を示し、「もう一回このページ読んで!」を何度も繰り返します。こういった反応は、読み聞かせの醍醐味といえます。

物語の終盤では、物理的な美しさを失っても心の豊かさを得るという重要なメッセージが込められ、この絵本の普遍的なメッセージは、医療専門職をめざす学生たちにも、知識の共有や共感の重要性を学ぶ一助になると考えます。大人になってから読む絵本は、新たな発見があることや、幼少期とは異なる感動を得る瞬間が体験できるかもしれません。ぜひこの絵本を読んでみてください。お薦めいたします。

デ・キリコ展

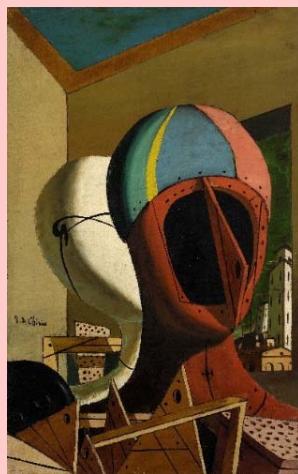
ただいま東京都美術館では、形而上絵画の創始者といわれるジョルジオ・デ・キリコ(1888-1978)の回顧展が開催されています。形而上絵画とは「現実の奥にある非現実」を描く手法で、一見、合理的な思考では理解しがたい謎めいた世界が広がる絵画ですが、静けさをまとった神秘的な情景は忘れがたく、心に残ります。この手法は、デ・キリコが若い頃に親しんだ哲学者フリードリヒ・ニーチェの影響が大きいと言われており、のちのシュルレアリズム^{※1}の画家たちに強い衝撃を与えた。

1888年にギリシャで生を受け、1906年にドイツ・ミュンヘンへ移住したデ・キリコ。そこで美術学校へ通い、1910年頃から形而上絵画と呼ばれる作品を描き始めますが、きっかけは、見慣れたはずのフィレンツェの広場が、突如、初めて見る景色であるかのような感覚にとらわれたことだそうです。形而上絵画は「イタリア広場」に始まり、重要なモティーフであった人物像をモノに置き換えたかのような「マヌカン」、室内に静物を配置した「形而上の室内」へと展開してゆき、簡潔明瞭な構成で広場や室内を描きながらも、歪んだ遠近法や脈絡のないモティーフを配置して、幻想的な雰囲気で「現実の奥にある非現実」を表現しました。1919年以降は伝統的な絵画へ回帰し、古典的な主題や技法を用いた作品を手がけるようになりますが、その後、再び「新形而上絵画」と呼ばれる新たな手法を生み出し、過去の作品を再解釈した新しい境地に到達していきます。絵画のほかにも、彫刻や挿絵、舞台美術などデ・キリコの活動は幅広く、彼の芸術の最大の理解者である妻や弟に支えられながら、90歳で生涯を閉じるまで、自身の才能を信じて精力的に創作を続けました。

世界各地に点在するデ・キリコの作品が一堂に会し、その変遷を鑑賞できる希少な機会です。めったに集結することのないデ・キリコの世界を堪能してみてはいかがでしょうか。

※1 1920年代、フランスに興った芸術運動。超現実主義。

代表的な画家は、サルバトール・ダリ、ルネ・マグリット。



△ ちょっと図書紹介 △



すばらうな学生の看護実習本 ずばかん
(中山有香里著/黒林社)

元看護学生&現役看護師である著者の中山有香里さんが、「看護学生さんがもっと休めますように！」と看護実習でおさえておくべきポイントをイラストとマンガでまとめた書籍『すばかん』。やることいっぱいの看護学生さんには目から鱗の1冊かもしれません。

◆ カタバミ ◆

クローバーに似たハート形の葉っぱが可愛らしい花です。日中は日当たりの良い場所で鮮やかに咲き誇り、夜になると花も葉も閉じます。葉っぱを閉じた姿が半分食べられたように見えるところから「カタバミ(片喰)」と名付けられたとか。生命力、繁殖力が強く、家運隆昌や子孫繁栄の家紋として用いた戦国武将も多かったそうで、日本の五大紋のひとつに挙げられています。花言葉は「喜び」「輝く心」。



@2024 Kaori Nagatsuka

△ 学生選書ツアー2024実施のお知らせ △

2024年9月12日(木)に紀伊國屋書店

新宿本店で学生選書ツアーを実施します。

参加費無料。詳細は学内掲示やポータル

サイト、右記QRコードをご覧ください。

御用ひ
づる!



作品:《形而上のミューズたち》 1918年 油彩・カンヴァス カステッロ・ディ・リヴォリ現代美術館 (フランチェスコ・フェデリコ・チエッルーティ美術財団より長期貸出) ©Castello di Rivoli Museo d'Arte Contemporanea, Rivoli-Turin, long-term loan from Fondazione Cerruti ©Giorgio de Chirico, by SIAE 2024

会場: 東京都美術館(〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36) 会期: 2024年4月27日(土)~8月29日(木) 開館時間: 9:30~17:30 ※金曜日は9:30~20:00 ※入室は閉館の30分前まで 休室日: 7月9日(火)~16日(火) ※ただし7月8日(月)、8月12日(月・休)は開室 銀蔵料(税込): 一般 2,200円 / 大学生・専門学校生 1,300円 / 65歳以上 1,500円 ※高校生以下無料 ※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその添付いの(1名まで)は無料 ※高校生・大学生・専門学校生 65歳以上の方、各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものを提示ください ※土日・祝日及び、8月20日(火)以降は日時指定予約制(当日の空きがあれば入場可) 展覧会公式HP: <https://dechirico.exhibit.jp> 展覧会公式X(旧Twitter): @dechirico2024

東京都美術館HP: <https://www.tobikan.jp/index.html> ※最新の情報は展覧会公式HPや東京都美術館HP等をご覗ください。※画像の転載ならびにコピー禁止。